教材事例書式

教材教具名　５色の玉 （色弁別セット）	教科（　算数　）	

教材教具写真

色筒（大）

色筒（小）

教材教具の概略（ねらいと使い方）　※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

１　ねらい　　色の違いを認識し、弁別する力を育てる。

２　発達段階　Ⅲ．操作することを通して数や量を認識する時期（発達段階別指導内容表より）

３　使い方

色筒と同色のカラーボールを用意する。筒とカラーボールの色を見比べ、同じ色の筒にカラーボールを入れ分ける。最初は２色×１個の弁別から始め、課題に合わせて色の種類やボールの個数を変えて行う。（最大５色×４個）

入れ終えたら筒の透明な部分で結果を確認する。

※色筒も実態に合わせて大（カラーボール４個まで）小（２個まで）選んで行う。

児童生徒の反応や教材の評価　使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

筒の口部分と底にも色をつけることで、どの目線の高さからも色が見え、色に注目させやすくなった。

透明部分で結果を確認することで、操作の結果をとらえやすく、正解した時には達成感をもちやすい。

２色から始め、５色×４個の弁別までできるようになった児童もいた。

５色の弁別ができた児童については、色筒に入れる時に指導者が色の名前を知らせるようにし、色の名前についても意識づけることをねらった。

色の違いを意識することが難しい児童には色筒（小）の２色を使用し、目の前で見本としてカラーボールを入れて見せた後、一個ずつボールを入れることに取り組むことで少しずつボールを入れる前に筒の色を見比べるようになった。

カラーボールを指導者が手渡してから色筒に入れる児童、たくさんのカラーボールの中から自分が選び取って色筒に入れる児童がおり、同じ教材を用いるなかでも児童の実態に応じて取り組んだり関わったりするようにした。